

南地域まちづくり かわら版

青パト全体会を開催しました！

◎6月23日(日)各地区の青色防犯パトロール隊の横の繋がりをより密にするため、全地区の隊員が参加し熱心に意見交換をしました。今回出された意見の一部を紹介します。

- ・担い手や車の確保が重要である。
- ・声かけを積極的に行い、防犯意識の向上を促進したい。
- ・青パトがまわっているという認識は地域にあるし、安全に役立っていると思っている。今後も活動に参加したい。



運転される際は
ご注意ください。

大栄橋西交差点の信号の 仕組みが変更されました



変更前
時差式



変更後
押しボタン式

押しボタン式は、通常時は時差式となりますが、通行者が押しボタンを押した際に車両信号が両側赤となり歩車分離となります。

3月13日(水)から大栄橋西交差点の信号が「おもいやり信号」に変更されています。

この交差点は小学生の通学路となっており、尾北自然歩道へ渡る際に、2段階で横断をしていました。この状況を改善するため児童が1回で道を渡り切れる仕組みへと変更されました。

「通学路こども110番の家」
広報おおぐち8月号に掲載されています。
ご覧ください。



南地域のたからもの vol.23 ～地域を見守る石造物4～

伝右の交差点から、県道176号線（若宮江南線）を少し西へ進んだ道沿いに、「馬頭観音」があります。

「馬頭観音」は、正面に「明和四歳（年）」「丁亥九月吉日」と刻まれ、後ろ側にこの地域の“イトウ”の苗字が確認できます。

このことから、明和4年（1767）に地域の方々によって建てられたことがわかります。

「馬頭観音」は、農業などの生業なりわいで必要な馬の無病息災むびょうそくさいを祈るとともに、交通や運搬で馬が活躍したことから、その無事を祈念するため、道沿いや辻（十字路）にも建てられます。

「馬頭観音」の建っている場所は、天保12年（1841）の村絵図において確認できる道と、現在の県道がちょうど重複している区間にあたります。もし「馬頭観音」の場所と道の位置がずっと変わっていなければ…目の前を通る馬や車、人々の安心・安全を約250年もの間見守ってきたことになります。

現在の県道は建立された当時と比べ、姿がすっかり変わってしまい、車に乗っていると「馬頭観音」に気づかないかもしれません。それでも「馬頭観音」は、今でもしっかりと、この道を通る皆さんを見守っています。



『あぶないよ きけんは そこにかくれてる』

（平成30年度南小学校児童入賞作品）

日差しが眩しい夏、涼しい木陰にと周りを見つめずにいたら思わぬところから自動車や自転車が！

日頃はあぶないと気をつけているのに！

だからこそ、今一度いつも心掛けていた交通安全を第一に、暑い夏を元気に過ごしましょう。

